

「やまゆり」鎮魂のバレエ

東京の岡本さん創作

ロシアで公演へ「風化防ぐ」



来年の公演に向け、練習を重ねる岡本さん(左)とウェルランさん

相模原市緑区の知的障害者福祉施設「津久井やまゆり園」で入所者が元職員に殺傷された2016年の事件を描いたバレエ作品が、ロシアのウラジオストクで来年公演される。次男が知的障害を抱える東京都三鷹市のバレエ教師岡本(みづき)さん(64)が創作した作品で、海外からも事件を発信することで風化を防ごうとする試みだ。岡本さんは「被害者、遺族の方々に思いを寄せて私の気持ちをありのままに作った。バレエを通じてレクイエムをささげたい」と話している。



事件の悲劇を演じた昨年の公演の様子(岡本さん提供)

作品は、「レクイエム」系の中で過酷に生きていた日常障がい者施設襲撃事件による劇を表現した。17年5月に「感情に配慮しながら事件を再現し、後半はダンサーが犠牲者に祈りの踊りをささげる。職員との信頼関係が改めて事件を見つめるきっかけになる」と、来年夏のロシア公演を企画した。折りの踊りは、世界各地の舞台で活躍するウクライナのフリーバレエダンサー、ユリア・ウェルランさん(30)が演じる。2人は事件から2年を前にした今年7月、施設前の献花台を訪れウェルランさんはあつてはならない事件。公演では、障害者の方たちや事件に遭われた方たち全てに祈りをささげる」と話した。

岡本さんの次男大地さん(29)は特別支援学校を卒業した後、現在は三鷹市内の障害者支援施設に通所している。岡本さんは「大地の笑顔は癒やして、毎日の励み」がかわいがる。しかし、4歳の頃に知的障害があるのが分かった時には、何が原因か思い悩み、治療しようと各地の病院などに通った。10年ほどすると、「彼をそのまま受け入れよう」という方向を見いだした」と振り返る。

バレエを通じて障害者を支援する活動にも力を入れた。約20年前にはNPO法人「アンリミテッド知的障害者支援の会」を設立。団体の名称通り、年齢や障害の有無、国籍や性別などの境界がなくなるように願いを込め、年に1回、バレエコンサート「アンリミテッドチャリティーコンサート」を開催している。

「障害のある方々を地域や国が育む社会になってほしい」の願いを込めている。

「きょうのことを何かしよう」と作品づくりに取り組んだ。殺人罪などで起訴された元職員植松聖被告(28)は「意思疎通のできない障害者は人間ではない」などと主張し、岡本さんは「障害者への偏見や弱者を排除しようとする自分本位の身勝手な考え方。障害者がいきいきと楽しく生きていられる世の中こそ本当に豊かな社会」と訴える。

都内の公演では、「作品に共感した。被害者が自分子供だったら本当にうらかったはず」などの反響が寄せられたという。岡本さんはロシア公演に向けて、

天気	きょう	明日	後日	最高	最低
三浦	晴	晴	晴	23	18
小田原	晴	晴	晴	24	19
海老名	晴	晴	晴	23	18
横浜	晴	晴	晴	23	18
東京	晴	晴	晴	23	18
西部	晴	晴	晴	23	18

「障害のある方々を地域や国が育む社会になってほしい」の願いを込めている。